

〔その他〕

道徳と特別活動を関連付けた 中学校におけるESDの授業開発

—津軽の地域素材をアクティブラーニングの方法を用いて教材化して—

野澤敬之*

Development of ESD Lesson in Association with Moral Education and Extra-Curriculum Activity in Junior High School:

Adapting Tsugaru's Regional Topics into Teaching material
Using Active Learning Methods

Takayuki NOZAWA

1. はじめに

本稿の目的は、チェスボロー号に関する津軽地方の地域素材をアクティブラーニング（以降、AL）の方法を用いて教材化し、道徳と特別活動（以降、特活）を関連付けた中学校における持続可能な開発のための教育（以降、ESD）の授業として、開発することである。なぜならば、第1にチェスボロー号に関する歴史の学習と、その伝承が地域の要請としてあるものの十分に応えられていないこと、第2に特活と道徳との関連付けの重要性が示される中、関連付けた実践が少ないこと、第3に学校教育全体においてESDに取り組まなければならないものの、特活と道徳に関する実践が少なく、学校教育全体で取り組んでいるとは言い難いという課題を抱えているからである。

上記の課題解決のため、以下4点を明らかにす。第1に、地域のチェスボロー号に関する要請が学校教育の内容と重なり、その要請に応えることが「地域と共にある学校」につながる。第2に、チェスボロー号に関する内容や地域からの要請が、特活や道徳およびESDの目標や内容と重なり、教材になりうる。第3に、教材化に際し、ALの方法を用いることが効果的であること。第4に、これらを踏まえた特活の授業計画を指導略案として示す。

第1の、地域のチェスボロー号に関する要請が学校教育の内容と重なり、その要請に応えることが「地域と共にある学校」につながることは、地域ではこの内容が道徳的であることから、伝承を要請しており、学校でもこの要請を受けたことにより、地域とともにある学校の一翼を担う可能性がでてくる。第2の、チェスボロー号に関する内容や地域からの要請が、特活や道徳およびESDの目標や内容と重なり、教材になりうることは、この地域素材には道徳の内容項目の国際理解、国際貢献などが含まれていることから、教材化して授業開発が可能であり、特活の「人間関係形成」に関する内容が含まれていることから、教材化して授業開発が可能である。また、ESDは、学校教育全体でESDに関する目標を設定して教育活動の充実を図ることが求められているため、教材チェスボロー号を用いて授業を行う場合は、道徳においてはつながりを尊重する態度、特活においてはコミュニケーションを行う力の育成を目標とする。第3の、教材化に際し、ALの方法を用いることが効果的であることについては、世の中の課題を深く理解するには、疑似体験等が必要であり、チェスボロー号の内容に登場する様々な人々の考えを理解するには、ロールプレイが適しているから

* 弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員

である。第4の、これらを踏まえた特活の授業計画を指導略案として示すことについては、授業の目標や内容の概要、展開計画として示す。

2. 地域素材チェスボロー号と学校教育

2.1 地域素材チェスボロー号の概略

地域素材チェスボロー号に関する概略は以下の通りである。なお、概略を示すために、鈴木喜代春(2009)『北の海の白い十字架』、青森教育委員会(2013)『平成24年度 道徳指導資料集 郷土資料に関わる実践事例集【小学校編】』、青森放送株式会社(2020)『チェスボロー号物語～海を越えた愛と勇気～』(以降、特別番組)を参考にしている。

1889年(明治22年)アメリカのメイン州バス市で建造された貨物船チェスボロー号は、乗組員23人と石油を積んで喜望峰経由で神戸港へ入港した。その後、少し残った石油販売のため、函館に入港した。売り切った石油の代わりに硫黄を積み込み、1889年10月28日に函館港を出発し、帰路についていた。しかし、津軽海峡で強風にあおられ、日本海まで流された。10月30日、旧車力村、現在のつがる市車力の沖合で遭難、地元の漁師たちは救助のため荒れる海へ舟を出した。また、波間に見えた瀕死の乗組員は、地元の若い者が泳いで救出し、4人を救出した。冷たい海に長く浸かった船員たちの体を温めるために、火が焚かれた。最後に助けられたヘンリー・ウイルソンは、低体温症で命の危険があった。しかし、高山稲荷神社に嫁いだ工藤はんは、人目をはばからず上半身裸になり、ウイルソンを自分の体温で温めて、瀕死の状態からよみがえらせた。

4人は、村人が差し出した握り飯にはほとんど手を付けなかった。巡査が村人に外国人はパンを食べると告げるものの、村人にはパンが何か分からなかった。味噌汁を提供するもあまり喜ばなかったため、卵を入れてみると喜んで食べた。卵や鶏の肉を好むと知って、作物が育たない不毛の地と呼ばれた車力村で数少ない収入源である卵や、それを生む鶏の肉を惜しげもなく差し出した。着るものや仮住まいの小屋も準備した。こうした、村人以外の人のために働くのは初めてだった。

そうした中で、村一番の物知りと言われた交番の巡査が、「ナポレオン、ビスマルク、ワシントン」と聞く中で、ワシントンに反応が大きくあったことから、乗組員はアメリカ人であることが分かった。

その後も、乗組員が浜に打ち上げられるものの、村人の手当ても無駄だった。村には医者がいなかったのだ。また、アメリカ人であることはわかったものの通訳がおらず、言葉が通じなかった。そのため、俊足自慢の二人が、青森市の県庁まで、応援を頼みに走った。知らせを聞いた県庁から、医者と通訳が派遣された。通訳が来てからは、意思の疎通もはかられ、村人は生き抜いた4人を称え、乗組員は感謝の気持ちを伝えた。11月2日、4人は帰国に向けて青森市に出発した。その後、函館・横浜港を経てアメリカへ帰国した。4人以外の19人は、残念ながら犠牲となった。船長をはじめとする乗組員は、村人により手厚く埋葬された。

現つがる市木造の要心寺には、2人の乗組員の墓がある。1949年(昭和24年)には墓が建て替えられた。その際、終戦後間もない時期でありながら、敵国だったアメリカ人の墓を建て替えることに、何の迷いも無かった。

1990年には、100周年を記念して、慰霊祭が行われ犠牲者の魂を弔うとともに、偉大な先人を称え、全人類が助け合う平和な世の中を祈願した。また、旧車力からバス市までの距離、10,200kmを泳ぎ切ろうとチェスボローカップ水泳駅伝が始まり、2005年市町村合併により、つがる市に引き継がれている。2019年、130周年を節目に、人間愛、道徳的な実話を伝えたいと考え、チェスボロー号歴史保存会が創設された。また、有志による絵本の読み聞かせ会も開かれた。

このように、地域素材チェスボロー号は、異国の船員を助けた愛と勇気の物語である。この博愛の精神は、小説や絵本の題材となり、伝えられた。さらに、次の世代へ語り継ごうと動き出したのである。

2.2 チェスボロー号に関する地域の要請

地域素材チェスボロー号は、道徳的な内容を含むことから、学校において伝承されることを地域有志が要請している。詳細は、以下の通りである。

チェスボロー号の遭難に関する資料の研究と、子供たちへの伝承を目的にチェスボロー号歴史保存会（以降、歴史保存会）が、地元有志により創設された。特別番組のインタビューに答えた保存会メンバーは、人間愛という道徳的な話を車力地区はもとより、青森県や全国へ知らせたいという。車力小学校でチェスボロー号に関する授業が行われた際には、ゲストティーチャーを派遣している。

以上のことから、地域素材チェスボロー号は、道徳的な内容を含むため、学校において伝承されることを要請しているといえる。

2.3 地域とともにある学校の一翼を担う可能性

地域の要請を受け、チェスボロー号に関する内容を学校教育に取り入れることは、「地域とともにある学校」の一翼を担う可能性があると言える。詳細は、以下の通りである。

文部科学省（2018a）によれば、学校と地域の人々が目標を共有し、一体となって地域の子どもを育むことは、子どもの豊かな育ちを確保することのみならず、そこに関わる大人たちの成長、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにもつながるといい、こうした地域とともにある学校づくりを進めていくために、学校と地域の人々が、熟議すること、同じ目標に向かい、協働すること、校長を中心に学校のマネジメントし、組織としての力を上手く引き出すことが求められるという。

本稿で取り上げた地域素材チェスボロー号に関する動きでは、特別番組によれば歴史保存会が、車力小学校5年生のチェスボロー号に関する授業の際に、ゲストティーチャーを派遣したほか、チェスボロー号に関係する施設を校外学習で児童が訪問した際の案内や解説を行っている。児童たちは、こうした学びの結果、特別番組のインタビューで、「旧車力の人たちは、優しい心を持っている。」や「勇気を持っている。」と答えている。優しさは、「思いやり・親切」、勇気は、「希望・勇気・努力」と関係が深い。これらは、道徳的価値項目であるから、歴史保存会と学校が同じ道徳の目標を設定して協働した成果が出ていると言える。

この協働の他、「地域とともにある学校」に向けては、熟議と学校マネジメントが不可欠であるものの、今後の進展を待たなければならない。しかし、学校と地域の協働が見られたことから、「地域とともにある学校」の一翼を担う可能性があると言える。

3. 地域素材チェスボロー号と学校教育における道徳・特活及び対象学年

3.1 対象学年

本稿において地域素材チェスボロー号を教材化した場合の対象を、中学校3年生とする。なぜならば、第1に中学校3年生の社会科歴史的分野の内容が含まれているから、第2に中学校3年生の社会科公民的分野の内容が含まれているからである。

第1の、中学校3年生の社会科歴史的分野の内容が含まれていることについては、以下の通りである。チェスボロー号の遭難は、明治時代であるから、歴史的分野においては、中学校2年生が対象となる。しかし、第二次世界大戦直後の1949年に、敵国であったアメリカ人の墓を建てた際の村人の心情理解には、中学校3年生で学ぶ歴史の知識が必要である。

第2の、中学校3年生の社会科公民的分野の内容が含まれていることについては、以下の通りである。チェスボロー号に関する内容は、異国の遭難した船員を助け、貧しいながらも最大限の救助・看病・もてなしが言葉や文化を越えて行われたことを、含んでいる。これは、文部科学省（2018b）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 社会編』は、公民的分野で身に付けさせる知識として、世界平和の実現と人類の福祉の増大のため、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際機構などの役割が大切であることを理解させるように示してい

ることに大きく関係する。公民的分野は、中学校3年生で学ぶことから、相互に関連付けて生徒に学ばせることで、効果が高まると考えられる。

以上のことから、地域素材チェスボロー号を教材化した場合の対象を、中学校3年生とした。

3.2 地域素材チェスボロー号と道徳

地域素材チェスボロー号には、道徳的内容が含まれていることから、教材化して授業開発が可能である。詳細は、以下の通りである。

地域素材チェスボロー号には、2章1節で述べたように、見知らぬ異国の人間を嵐の中に舟を出し救助に当たったり、服を脱ぎ体温で凍えた乗組員の命を救ったりした。これらはそれぞれ、文部科学省(2018c)『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 特別の教科 道徳編』に示されている内容項目の「C 国際理解、国際貢献」と関係が深い。また、にぎりめしや味噌汁は好まれなかったものの、卵や鶏を好むと知れば、味噌汁に卵を入れ、鳥料理を提供することで食べさせることができたことは、内容項目の「B 相互理解、寛容」と関係が深い。他にも、これらの料理提供は、村人たちの食文化とは異なるものの、乗組員の嗜好に合わせたこと、施しを受けた乗組員側は、県庁から派遣された通訳が村に到着した後、村人たちに感謝の気持ちを伝えたことは、内容項目の「B 思いやり、感謝」と関係深い。

以上のことから、地域素材チェスボロー号には、道徳的内容が含まれていることから、教材化して授業開発が可能であると言える。

3.3 地域素材チェスボロー号と特活

地域素材チェスボロー号には、特活の「人間関係形成」に関する内容が含まれていることから、教材化して授業開発が可能である。詳細は、以下の通りである。

地域素材チェスボロー号には、2章1節で述べたように、遭難した異国の船員を助けたことから、言葉を越えたコミュニケーションが含まれる。例えば、巡査が「ナポレオン、ビスマルク、ワシントン」と聞かす中で、ワシントンに反応が大きくあったことから、アメリカ人であることが分かったという出来事である。巡査が乗組員に話したのは、人の名前だけであり、名前に対する反応を見て、コミュニケーションをとっていたのである。つまり、この話には、言葉に頼らない、又は少しの言葉でコミュニケーションをとったという内容が含まれている。文部科学省(2018d)『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 特別活動編』には、特活で育成する資質・能力等を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点に整理しており、この中の「人間関係形成」は「人間関係をよりよく形成すること」と同義であると示されている。チェスボロー号の内容には、言葉が通じない中、異国の人間とコミュニケーションをとろうとする巡査や村人が描かれており、これは、正に人間関係をよりよく形成しようと努力する姿である。

以上のことから、地域素材チェスボロー号には、特活の「人間関係形成」に関する内容が含まれていることから、教材化して授業開発が可能であると言える。

このように、地域素材チェスボロー号は、道徳と特活の教材化が可能である。具体的な教材化は4章で示すとして、教材化した地域素材チェスボロー号を、「教材チェスボロー号」と呼ぶことにする。

3.4 教材チェスボロー号と学校教育におけるESD

学校教育全体でESDに関する目標を設定して教育活動の充実を図ることが求められているため、教材チェスボロー号を用いて授業を行う場合は、道徳においてはつながりを尊重する態度、特活においてはコミュニケーションを行う力の育成を目標とする。

ESDは、学校教育全体でESDに関する目標を設定して教育活動の充実を図ることが求められていることについては、以下の通りである。文部科学省(2018e)『中学校学習指導要領(平成29年度告示)』において、持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、特別活動等の他領域の指導を通して、どのような資

質・能力の育成を目指すのかを明確にし、教育活動の充実を図るとしている。このことから、教材チェスボロー号も、ESDに位置付けることになる。詳細は、以下の通りである。

国立教育政策研究所（2018）により、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例が7つ示されている。それは、批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的、総合的に考える、コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度である。

教材チェスボロー号を用いた道徳の授業の「ねらい」を、日本人として固有の言葉や文化等を大切にしながら、国際的視野に立って同じ人間を尊重し合うことが大切であることを理解する、と設定した場合、「つながりを尊重する態度」と関連する。また、特活の目標を、ことばを使わないコミュニケーション方法を身に付ける、とした場合、「コミュニケーションを行う力」と関連することになる。

以上のように、教材チェスボロー号に関する道徳と特活の授業は、ESDに位置付けることができる。

4. ALを方法とする理由と単元・2/5次の展開計画

4.1 教材チェスボロー号の単元の計画

教材チェスボロー号の単元計画を、以下の表のようにする。

表1 単元の計画（著者作成）

次	教科等	目 標	内容の概略	場所	備考
1	特活	ことばを使わないコミュニケーション方法を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・誕生日の輪 	体育館	筆記用具、5～6色シール
2			<ul style="list-style-type: none"> ・ディスクリマドッド 		
3	道徳	日本人として固有の言葉や文化等を大切にしながら、国際的視野に立って同じ人間を尊重し合うことが大切であることを理解する。	「乗組員が味噌汁や握り飯を食べないとわかると、村人はなぜ、貴重な収入源である卵を味噌汁に入れたり鶏を提供したりしたのですか。」を中心発問に展開する。	教室	資料は青森県教育委員会発行、「チェスボロー号の遭難」
4	特活	ことばを使わないコミュニケーション方法を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の登場人物の立場に立ち、新たなコミュニケーションの方法を考える。 ・振り返り 	教室	振り返りの発表による学びの共有化
5					

4.2 ALを方法とする理由

教材チェスボロー号の第1次、第2次には、シミュレーション、第3次～5次にはロールプレイを方法として用いる。詳細は以下の通りである。

誕生日の輪は、言葉や文字を使わず、1月1日から12月31日まで参加者を誕生日順に並べ、輪を作るアクティビティーである。また、グラハム・バイク他（1993）が紹介しているディスクリマドッドは、多数派による少数派の排除である。しかし、言葉や文字を使わず、同じ色のシールを貼られた人同士が手をつないで座るアクティビティーでもある。これらのシミュレーションについて、廣瀬他（2000a）は社会の課題を取り上げ、一定の状況を疑的に設定し、体験的に行動、活動して学ぶ方法であるという。言葉の通じない乗組員とコミュニケーションをとる方法を考えるためには、生徒に疑似体験をする中で考えさせたり気づかせたりする方法が、有効だと考えられる。

廣瀬他（2000b）によれば、ロールプレイは、様々な立場の人々の意見や考えを理解し、多様な視点を育てることができるという。道徳資料の登場人物や、他の本教材の登場人物には、村人、船の乗組員の他にも巡査や通訳など、様々な人が登場するため、それぞれの立場で考えさせるには、ロールプレイが有効であると考えられる。

以上のことから、シミュレーションとロールプレイを方法として用いる。

4.3 2/5次の展開計画

第2次の展開計画を表2に示した。なお、本時の計画は、2～3クラス合同で実施した場合を想定している。その際、学年主任が司会・ファシリテーター、学級担任が生徒へのシール貼り、副担任は、生徒と同様に活動に参加するものとする。

表2 2/5の展開計画（著者作成）

段階	学習活動（チームティーチングによるT2の言動を含む） ○ 教員の指示や発問等 • 生徒の反応や行動等	◇留意点 ◆評価
導入	<p>○学年朝会の隊形で整列させる。</p> <p>○授業開始の挨拶</p> <p>○ワークシートを配布し、以下の(1)～(5)を説明する。</p> <p>(1) 筆記用具1本と、このプリントをポケットに入れる。</p> <p>(2) 学級ごとにみんな円になって座る。その時、顔を伏せず、前を向いて座ること。</p> <p>(3) 指示があるまで、絶対しゃべってはいけない。また、手で文字を書いたり、口パクをしたりしてもいけない。</p> <p>(4) 活動における約束は、必ず守ること。</p> <p>(5) その後のルールは、円になって座った後に説明する。</p>	<p>◇筆記用具1本を持参させる。また、椅子は、学級ごとに体育館の壁に沿って置かせる。</p> <p>◇活動を通しての気づきや考えを重視するため、意図的に学習課題は提示しない。</p>
展開	<p>○学級ごとに円を作らせ、円の内側を向いて座らせる。以下の説明(6)～(8)をする。</p> <p>(6) 合図があるまで、目を開けてはいけない。</p> <p>(7) これから、学級担任が皆さんの、ひたいに色のついたシールを1枚貼るので、次の指示が出るまで、静かに待つこと。</p> <p>(8) 皆さんのひたいに、色のついた1枚のシールが貼っている。指示があったら、静かに目を開け、同じ色のシール同士で手をつなぎ、円を作って座る。その際、絶対しゃべってはいけない。また、手で文字を書いたり、口パクをしたりしてもいけない。</p> <p>○静かに目を開け、同じ色のシール同士で手をつなぎ、円を作って座らせる。</p> <p>○ワークシート①「無言でもコミュニケーションをとることができたか」を書かせ、その後に発表させる。 • 自分の色を教えてもらって、うれしかった。</p> <p>○ワークシート②「自分が相手の色を教えた時や、色が分からず教えてくれる人を待っている時の気持ちはどうだったか」を書かせ、その後に発表させる。</p> <p>○副担任や多数派の生徒たちに、活動の感想を発表させる。 • 赤色シールの副担任「一人で寂しい思いをした。」 • 緑やピンク色シールの生徒「人数が多く心強かった。」</p> <p>○発表を聞いて、ワークシート③「先生や友達の話聞いてどんなふうに思うか」を書かせ、その後に発表させる。 • 少数派は、仲間外れの意識を持っていた。 • 多数派は、仲間がいて安心できていた。 • 少数派が、かわいそうだ。</p> <p>○ワークシート④「このような少数派を無くするためにできることは何か」を書かせ、その後に発表させる。 • 少数派の人に声をかける。 • 仲間に入れてあげる。</p>	<p>◇同じ形のシールで、色違いを準備する。30人学級であれば、例えば赤1、青3、緑10、ピンク16枚のように、少数と多数に分かれるようにシールを準備する。</p> <p>◇学級担任がシールをはる。</p> <p>◇全員貼り終えたことを確認する。</p> <p>◇副担任は生徒の輪に入り、赤色のシールを貼られる。</p> <p>◆無言でもコミュニケーションをとることができたか。</p> <p>◇自分が相手の色を教えた時や、色が分からず教えてくれる人を待っている時の気持ちも書かせる。</p> <p>◇体育館端に置いた椅子に戻らせ、書かせる。</p> <p>◇少数派の人を異国の地で遭難し、救助された4人の気持ちに重ねさせる。</p> <p>◇見知らぬ異国の4人のために、尽くした村人の気持ちに重ねさせる。</p>

終 末	<p>○振り返りとして、ワークシート④「全体を通して、気づいたことや感じたこと」を書かせ、その後に発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見方を変えることで仲間外れを出さない。 ・周囲に目を配り、少数派には声をかける。 <p>○学年朝会の隊形で整列させる。</p> <p>○授業終わりの挨拶。</p> <p>○生徒退場。</p>	<p>◇自分の言葉で振り返りをさせる。</p> <p>◇発表を聞かせ、学びの共有を図る。</p>
--------	---	--

5. おわりに

チェスボロー号に関する津軽地方の地域素材を、ALの方法を用いて教材化し、道徳と特活を関連付けた中学校にけるESDの授業として、開発することができた。これにより、ESDと関連付けた実践報告が少ない、道徳や特活への広がり期待できる。

課題は、次の2点である。1点目は、本開発教材と社会科の関連を示したものの、具体的な展開計画まで示していないことである。2点目は、本教材が学校や地域をつなぐ地域とともにある学校の一翼を担う可能性を示したものの、学校や保護者側の動きが分らず今後の展望を示せなかったことである。今後は、この2点にも力を入れたい。

引用・参考文献

- 青森教育委員会（2013）『平成24年度 道徳指導資料集 郷土資料に関わる実践事例集【小学校編】』pp.38-41.
- 青森放送株式会社（2020）「チェスボロー号物語～海を越えた愛と勇気～」、1月25日16時～16時30分放送、
- グラハム・バイク他（1993）「ヒューマン・ライツ」、明石書店、pp.84-85.
- 廣瀬隆人他（2000a）生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方、ぎょうせい、p.86.
- 廣瀬隆人他（2000b）生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方、ぎょうせい、p.78.
- 国立教育政策研究所（2018）「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」、p.9.
- 文部科学省（2018a）「コミュニティ・スクール2018」、pp.3-5.
- 文部科学省（2018b）「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 社会編」、p.159.
- 文部科学省（2018c）「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別の教科 道徳編」、pp.24-25.
- 文部科学省（2018d）「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編」、p.12.
- 文部科学省（2018e）「平成29年度告示中学校学習指導要領」、p.17-18.
- 鈴木喜代春（2009）「児童文学全集7巻 北の海の白い十字架」、らくだ出版